

6月 は 環境月間 です

あなたは環境にやさしい行動を
実践していますか？

6月5日は環境の日です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。これを受けて日本では1991年から6月を「環境月間」と定めて、全国各地で環境に関する行事や啓発活動を行っています。

自然豊かな北秋田市と美しい地球を子孫に引き継いでいけるよう、一人一人が環境問題に目を向け、みんなで環境に優しい行動を実践していきましょう。

クリーンリサイクルセンターへの資源ごみ搬入量（年度別）

		（単位：t）			
種類	／ 年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
古紙類		931.43	945.96	926.25	932.13
リサイクル缶		140.97	140.61	133.96	126.64
ビン（無色）		112.21	113.03	106.72	108.92
ビン（茶色）		179.23	177.04	174.13	167.46
ビン（その他）		34.39	35.35	35.39	37.23
ペットボトル		77.25	75.32	75.72	72.52
その他プラ		84.37	80.38	74.40	74.38
白色トレイ		8.27	7.90	6.71	6.56
紙パック		13.83	13.85	13.11	14.35
合 計		1,581.95	1,589.44	1,546.39	1,540.19

◇アルミ・スチール缶は、溶かして新しい缶などに生まれ変わります。

◇ペットボトルは、溶かして再び同じ製品か別のプラスチック製品の材料として、また、化学原料として再利用されます。

◇ビンは容器包装リサイクル法により無色・茶色・その他の3つの色に分けて収集しています。ビンは細かく砕かれ、いろいろな製品に生まれ変わります。また、ビンは洗って何回でも使うリユース（再利用）することができます。

◇紙パックは、良質なパルプから作られています。水洗いすればリサイクルの原料となる資源です。リサイクルにより必要以上に木を伐採せず、地球温暖化の防止にもつながります。

資源ごみは大切な資源になります

クリーンリサイクルセンターに搬入された平成22年度から25年度までの資源ごみの搬入量は左記のとおりです。

リサイクル缶・ビン（茶色）・ペットボトルなどの資源ごみは、家庭でしっかりと分別して出すことによって大切な資源になります。これから暑い季節を迎え、飲料水などの空容器が増えますので処理するときはリサイクルにご協力をお願いします。

全国「ごみ不法投棄監視ウィーク」

（5月30日から6月5日）

5月30日（こみゼロの日）から6月5日（環境の日）までの期間を「全国「ごみ不法投棄監視ウィーク」とし、住民や事業者、行政などの関係機関が一体となって不法投棄の監視強化、啓発活動を一齐に行います。

市では通年、不法投棄監視員による監視活動や不法投棄多発箇所への警告看板の設置などの対策を行っていますが、依然として不法投棄が後を絶ちません。日常生活から生じたごみは、ルールに従って処理し、不法投棄のないきれいなまちを目指しましょう。



ライトダウンキャンペーン

（6月21日から7月7日）

環境省では2003年より地球温暖化防止のため、「CO2削減／ライトダウンキャンペーン」を実施してきました。この取り組みは、日常生活でいかに照明（電気）を使用しているかを実感し、省エネや地球温暖化対策を実践するきっかけづくりを目指したものです。今年の夏は、6月21日から7月7日までの期間に不必要な照明の消灯を呼びかける「ライトダウンキャンペーン」を実施します。本キャンペーンへの積極的な参加により、地球温暖化対策にご協力ください。

環境省「ライトダウンキャンペーン」特設ページ

<http://funtoshare.env.go.jp/coolearthday/>

ごみを減量するための『3R』

ごみを減らすための3つの方法、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）の頭文字をとって『3R』といいます。これら3Rの中で身近で簡単に出来るものから挑戦してみましょう。

リデュース（Reduce）

「ごみ」にしない、減らす

- ・使い捨てのものは買わない、使わない
- ・買い物にはマイバックを持つていく
- ・余計な包装は断る。買いすぎない
- ・長く使えるものを選ぶ

リユース（Reuse）

「ごみ」にしないで、何度も使う

- ・詰め替えて繰り返し使えるものを使う
- ・使いたい人に譲る。中古品の活用
- ・壊れてもできるだけ直して使う
- ・ビン等は資源物へ分別する

リサイクル（Recycle）

「ごみ」を生かす、再資源化する

- ・ごみと資源物を分別して排出する
- ・売っていたお店の回収ボックスへ返す
- ・生ごみはたい肥として利用する
- ・リサイクル製品を購入する

たけのこ採り、行き先告げて、無理せずに

たけのこ採りのシーズンとなりました。県内では昨年、春の山菜採りで29件の遭難事故が発生しており、2人の方が亡くなっています。遭難すると家族へ心配をかけるだけでなく、捜索に多くの人員を要するなど、多大な手間と費用がかかることになります。（捜索は原則有料です）

【遭難しないための心得】

- ◆入山する場所や駐車場所、帰宅予定時刻を家族へ知らせる
- ◆単独での入山や午後からの入山は避ける
- ◆食べ物、雨具、着替え、時計、ライター、光る物、発煙筒などを持ち目立つ服装で入山する
- ◆クマ等の対策として、ラジオ、鈴などで音を鳴らしながら行動する
- ◆迷ったときは歩き回らず、体力の消耗を避けるため、目標物周辺（大木の下や岩陰）で救助を待つ
- ◆迷ったときの通報手段として携帯電話を持つ



☎ 生活課地域推進係 ☎ 62-6628